2014年第1号
2014/3/6
在沖縄米国総領事館

からはーい

ご挨拶

マグルビー総領事
開邦高校にて

キャロライン・ケネディ大使
国立沖縄戦没者墓苑で献花

目次:

ご挨拶	1
オペレーション・ダマヤン	2
第3回「オキナワン・ファースト ビジネス・フェア」イン宜野湾	3
第4回「オキナワン・ファースト・ベンダー・ショウケース」	3
越来小学校へ「優勝旗」を返還	4
沖国大、TOMODACHIプロジェクトに参加！	4
“リーダーシップデイ”	5
アメリカ情報コーナー / アメリカンシェルフ	6
4コマ漫画＆お知らせ	7

今年2月、昨年11月に着任したケネディ大使が沖縄を初めて訪問しました。総領事館では、着任前から新大使に沖縄の美しさや奥の深い歴史、複雑な政治課題をどう紹介するかを考えておりました。多くの沖縄の方々にも意見を求めました。総領事館で働く私たちが、毎日暮らしているこの島を、新たな目で確かめる機会となりました。その準備も、実際の訪問も、大変有意義な時間でした。

ケネディ大使の沖縄訪問の日程は、平和祈念公園で始まりました。大使は第2次世界大戦で犠牲となった大勢の方々を追悼する気持ちとともに献花し、資料館を丁寧に見学されました。平和祈念公園や祈念館で身に伝わってくるものは、現代沖縄の精神を、把握するのに効果的です。私も改めて深い感慨に浸ると同時に、沖縄が平和の発信地であることを強く意識いたしました。大使も、その様な気持ちを集まったマスコミの皆さんに伝えていました。

ニュースにはよくカバーされたと思いますが、仲井真知事との会談で、基地の話は勿論、文化交流やスポーツも話題に上がりました。その後、高良副知事の案内で首里城を散策しながら琉球王国時代の伝統を楽しみ、首里高校で元気な学生が、歌、詩、織物、染物の紹介に加えて、意見を分かち合ってくれました。大変充実した沖縄の一日でした。

沖縄県を代表する多くの方々を大使に紹介するのは、総領事としての私の大きな役割の一つです。夕方には、文化・政治・経済・教育・メディア界の指導的な立場にいらっしゃる方々をお招きし、懇親会を開きました。マスコミも大使の挨拶と知事の乾杯に参加し、その後、お一人お一人をケネディ大使に紹介させて頂きました。

2日目は、普天間の説明と高台からの視察、米軍人を激励する集まり等、基地のことをじっくりお見せすることができました。勿論、辺野古も陸路で視察して頂きました。

私が総領事として着任してから1年半が過ぎました。その間に沖縄の奥の深さについて学んだ幾分かのものを大使に理解して頂けたのではないかと思います。その意味で非常に有意義な大使の来沖であり、本人も希望するように、これから将来の幾度かの訪問を楽しみにしております。

私も、毎日の仕事や週末の合間を縫って、沖縄をより深く体験・体感するつもりです。最近の「発見」の一つはヤンバルクイナの“キョンキョン”に国頭村で対面したことです。毎日を楽しませるものの多い沖縄に住めて嬉しく感じますし、沖縄の幅の広い体験をより多くの訪問者にも紹介したいと存じます。3月には私の家族のものが沖縄に来る予定ですから、どこまで紹介できるかに挑戦します！

キャロライン・ケネディ大使
キャンプ・フォスターにて

ケネディ大使、沖縄を訪問（2月11-13日）
http://japanese.japan.usembassy.gov/j/p/tpj-20140214b.html

次頁へ

オペレーション・ダマヤン

2013年11月8日、歴史上最大級の台風ハイヤンがフィリピンを直撃し、6,000人を超える死者を出し、数えきれないほど多くの被災者が住居を失いました。この大災害の直後、在沖米軍基地から派遣された空軍・海兵隊の兵員は、日本各地の基地や部署から派遣された兵員とチームを編成し、オペレーション・ダマヤンを開始し、最も強い襲撃を受けた地域を中心に被災地を訪れ、何千人もの被災者の方々の避難救助を行い、食料、水、避難所、及びその他の物資を供給する支援を行いました。わずか70年前、日米が激戦を繰り広げた同じ地で、フィリピン、オーストラリア、英国、そして米軍の兵員が、日本の海上自衛隊の隊員の方々と手と手を携えて、フィリピンの国民を救助するために活躍しました。

2013.11.18　米海兵隊と比陸軍がフィリピンルソン島パサイでUSAIDの救助物資をMV-22 Osprey 運搬。
U.S. Marine Corps Capt. Caleb Eames **Hi RES**

台風30号による被害を受けたフィリピンへの米国による支援概要

275,000人への飲料水、124,700戸への生活用水の支給

20,000世帯への緊急シェルター用品の提供

衛生用品20,000世帯への提供

270万個の食料品パッケージの支給

米軍機航空援助：合計2,748時間

- MV-22オスプレイ派遣349回、382.4時間
- C-130ハーキュリーズ派遣387回、508.3時間
- H-60ヘリコプター派遣387回、998.8時間
- C-17航空機27回、派遣37.6時間

被災地域へ派遣された米軍人数：13,446人（海軍兵、空軍兵、海兵隊）

- 飛行機61機
- 軍艦27艦

米国政府（国際開発庁・国防総省）による援助総額：37,230,302ドル

米国赤十字社による寄付11,000,000ドル

国際援助総額182,200,000ドル

救援貨物合計2,495トン

避難者合計21,402名（うちフィリピン国籍20,561名）

2013.11.12フィリピン首都マニラのヴィラモール空軍基地をKC-130J スーパーハーキュリーズで出発したフィリピン台風で被害にあったフィリピン人を補助する米海兵隊。***U.S. Marine Corps photo by Lance Cpl. Caleb Hoover*** **Hi RES**

オペレーション・ダマヤン（英語）：
http://www.defense.gov/home/features/2013/1113_haiyan/

2013.11.18 フィリピンルソン島パサイで二国間アセスメントチームが活動のため上陸するのをMV-22B Ospreyから見守る米海兵隊員. ***U.S. Marine Corps photo by Capt. Caleb Eames*** **Hi RES**

1頁目に戻る / 次頁へ

第3回「オキナワン・ファースト　ビジネス・フェア」イン宜野湾

2013年11月21日、宜野湾市中央公民館ホールでアルフレッド・マグルビー在沖米国総領事、上原勝則産業振興公社専務理事、ジェフリー・アルマン第18任務支援群司令官が参加して第3回「オキナワン・ファースト ビジネス・フェア」イン宜野湾が開催されました。これは在沖米国総領事館と沖縄県産業振興公社が主催、宜野湾商工会が後援し県内中小企業が米軍基地内での役務や物品の調達・購買システムを理解し新たなビジネス・チャンスを拡大するために行っているもので、今年も200名を超す事業者が参加しました。参加者は、沖縄にある10の米軍関連の契約事務所や調達部門の発表に耳を傾けたり、各ブースで更に詳しい話を聞いたりしていました。基地内の事務所の担当者から直接話を聞いたり、質問したりできる機会はなかなかなく、参加した事業者の熱気が伝わってくるビジネス・フェアとなりました。

第4回「オキナワン・ファースト・ベンダー・ショウケース」

2014年2月6日に、第4回オキナワン・ファースト・ベンダー・ショウケースが嘉手納空軍基地内シリング・コミュニティー・センターで開催されました。これは、沖縄県産業振興公社主催、第18航空中隊契約事務所の協力と在沖米国総領事館の後援で開催された展示商談会で、県内20業者が出店し、米軍契約事務所、部隊調達部署・GPC政府調達　クレジットカードホルダー、エンジニアなどを対象に、車両・電球・事務機器・建築資材等の物品販売や省エネ、環境浄化関連の機材やサービス、車両清掃（役務）の新商品やサービス提供について来訪者に説明していました。参加業者は、予め準備してきた英文パンフレットや資料を使って、英語で商品やサービスの内容について説明をしていました。米軍側からは約200人の担当者がこの展示商談会に参加し熱心に説明を聞いた他、約360件の商談及び資料請求がありました。ビジネスチャンスの拡大に興味のある業者さんは是非ご参加下さい。

1頁目に戻る　/　次頁へ

越来小学校へ「優勝旗」を返還

2014年2月14日にマグルビー総領事は沖縄市にあります越来小学校に招かれ、越来小学校の「優勝旗」返還セレモニーに参加させて頂きました。

優勝旗は1944年にサイパンに従軍した陸軍兵であったポール・ミラー氏が米国に持ち帰ったもので、ミラー氏の亡くなった後、息子さんがオクラハマ州にある軍歴史博物館へ寄贈したものです。博物館の方が寄贈された優勝旗について調査を開始したところ、軍旗ではなく、越来小学校のものであるということが在ヒューストン日本総領事館の協力を得て判明しました。さらにテキサス州の沖縄県人会の協力を得て越来小学校の母校が沖縄県の沖縄市にあり、優勝旗は同校の50周年を記念して1932年に制作されたものであるという事が分かりました。そこで、軍歴史博物館が優勝旗の返還に向けて動き出し、在沖米国総領事館から越来小学校への確認をしたうえで、約70年ぶりに優勝旗が戻ってくることとなりました。

当日、越来小学校は文部科学大臣賞という素晴らしい賞を受賞した祝賀会の最中で、高江洲校長の粋な計らいで、出席者へのサプライズとして優勝旗返還のセレモニーを開催して下さいました。会場の関係者の皆様からの歓声と拍手に迎えられて、優勝旗はマグルビー総領事から高江洲校長先生の手へと無事に渡されていきました。マグルビー総領事は挨拶の中で、「今回の優勝旗返還につきましては日本と米国の深く、そして複雑な関係を象徴するものであると思いますが、無事に優勝旗をこのように返還することが出来たという事は、私たち日・米がともに協力して何かを成し遂げることが出来るという素晴らしい関係を象徴するものでもあると思います」と述べました。この大変感慨深い瞬間を共有させて頂きました越来小学校の皆様、ならびに優勝旗返還にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

時代越え　人間結ぶ　優勝旗

沖縄国際大学がTOMODACHI-Innovations in Civic Participation (ICP) プロジェクトに参加！

皆さん、社会的起業家という言葉を耳にしたことがありますか？社会的起業家とは、社会問題を認識し、それを事業として取り組み、解決する人のことを言います。アメリカでは現在、大学等で次世代の市民リーダーや地域社会に良い変革をもたらすような社会的起業家の養成に力を入れています。

TOMODACHI-ICPプロジェクトは日米間の社会的起業家に関する大学間や専門家の知識の共有や提携を通して、同分野での二国間の協力関係を強化することを目的としています。

そして、日本を代表して同プロジェクトに参加する三校の一つに、沖縄国際大学が見事選出されました！ちなみに他の二校は東京大学と東北大学となっています。選出基準は、学内で既に社会的起業家養成に取り組んでいること、そのカリキュラムの拡大に力を入れている大学であること、そして学校代表として参加する3名の教授と学生からなるメンバー全員が高い英語力を

1頁目に戻る / 次頁へ

有すること、というものでした。

沖縄国際大学チームの3名の皆さんは2月17日～27日の日程で米国のブラウン大学やジョージ・ワシントン大学、メリーランド大学等を訪問し、学生や教授陣との意見交換にのぞみました。100パーセント英語の環境で9時から6時までワークショップの数々に参加して大変だった、とのことですが学ぶことが沢山あり本当に貴重な経験が出来たとの帰国報告がありました。また、日本から参加した他の2大学とのネットワークも構築できたようです。ただ、毎日の大雪とマイナス10℃の気温には、生まれて初めて雪を見ることが出来た学生一人を除いては、厳しかったとのことでした。

来る6月には沖縄国際大学チームがこのプログラムを通じて学んだ成果を発表するワークショップの開催が予定されています。日程の詳細が決まりましたら、在沖米国総領事館のツイッターやフェイスブックでご案内いたしますので、ぜひご興味のある方は足をお運び下さい。

“リーダーシップデイ”

領事部では職員のチーム力を向上させるために、毎年一回、“リーダーシップデイ”という日を設けて、普段職場内では取り組めない様々な活動を計画し、実行しています。今年は、領事部のコミュニケーション力とチーム力の向上を目標としてオキナワクリスチャンスクールインターナショナル（OCSI）にて高校生を対象にアウトリーチを行い、また石川少年の家にてハイキングを行いました。

領事部外への情報発信とコミュニティとのコミュニケーション力の向上の為、OCSIでのアウトリーチでは、領事部担当の領事が国務省がどのような役割を担っているのか、外交官としての仕事とはどのようなものなのかを学生に説明をしたり、自身の経験を通して外交官試験のことや、今まで赴任をした国々での仕事についてもふれました。現地スタッフからは、領事部での仕事の内容や領事館での雇用についてお話ししました。また、アメリカへの留学、学生ビザ申請に関する情報や領事部スタッフのアメリカ留学経験なども、質疑応答を含めて、楽しく情報発信できました。

領事部内のチーム力、コミュニケーション力の向上の為、石川少年の家を訪れ、皆でハイキングに挑戦をしました。険しい山道を皆で声をかけながら協力をし、一歩一歩進んで行きました。一時間ほどの短くも、想像よりも苦しかったハイキングでしたが、頂上に到着した時、チームとして一つの事をやり遂げたという達成感を参加したスタッフ全員で噛み締めることができました。

今回はこの2つの活動を通し、領事部外への情報発信、また部内においての相互協力、コミュニケーションの大切さを改めて学ぶことが出来ました。領事部においての仕事は、一人の力によって成し遂げられるものではなく、それぞれのスタッフが様々な役割を担いながら完成していくものです。今後も、領事部はチームとしてより一層協力しながら、業務に専念していきます！

1頁目に戻る / 次頁へ

アメリカ情報コーナー / アメリカンシェルフ

アメリカ情報コーナー　/　アメリカンシェルフは、各地の図書館・公共施設に場所を提供していただき、日本では手に入りにくいアメリカの資料を寄贈、それらの資料を通じて文化交流を図るアメリカ国務省のプロジェクトです。アメリカの歴史・文化・価値観への理解を促進し、アメリカについて学ぶ機会を提供することを目的としています。沖縄には、2つのアメリカ情報コーナー（浦添市立図書館・名護市立中央図書館）と、1つのアメリカンシェルフ（宮古島市立平良図書館）があります。地域の皆様とアメリカとの交流を深めるため、設置団体と、文化イベントや英語での読み聞かせなどを共催しています。

女性史月間ポスター展

浦添アメリカ情報コーナーと名護アメリカ情報コーナーでは、3月の米国女性史月間と3月８日国際女性の日にあわせて女性史月間ポスター展を開催します。展示会場では、国務省出版物「女性実力者の系譜」を無料配布いたします。*数に限りがあります。

浦添アメリカ情報コーナー：3月1-16日

名護アメリカ情報コーナー：3月18-30日（展示ホール）

米国の女性史月間のルーツは1857年3月８日、ニューヨークの工場で働く女性達が労働条件を巡って抗議行動を行った時にさかのぼります。国際婦人デーは1909年に初めて実施されましたが、1981年になってようやく米国議会は、3月第2週を米国の女性歴史週間として祝うよう定めました。そして1987年には、週間を月間へと拡大しました。それ以来毎年、米国議会は女性歴史月間に向け決議を行い、大統領は声明を発表しています。

Women parade through the streets of New York City, ca. 1910. Photo: George Grantham Bain Collection (Library of Congress)

その他のイベント

2014. 3 **毎週日曜日** **2:00p.m.**	名護アメリカ情報コーナー **英会話カフェ** 米国人ALTと気軽に会話を楽しみましょう♪
2014. 3. 4(火) **4:00p.m.**	浦添アメリカ情報コーナー **英語のお話会** 浦添市国際交流員による英語のお話会。
2014. 3. 8(土) **3:30p.m.**	浦添アメリカ情報コーナー ミニ英会話教室　要予約 **Fun!Fun!English** 米国人講師と一緒にゲームを通して気軽に楽しく英会話！
2014. 3. 9(日) **2:30p.m.**	名護アメリカ情報コーナー **アメリカ映画上映会** 『A League of Their Own』（邦題『プリティ・リーグ』）
2014. 3.11(火) **& 3.25(火)** **6:00p.m.**	名護アメリカ情報コーナー **英語のお話会** 米国人ALTによる英語のお話会。
2014. 3. 15(土) **2:00p.m.**	浦添アメリカ情報コーナー アメリカ映画上映会 『mona lisa smile』（邦題『モナリザ・スマイル』）
2014. 3. 16(日) **12:30p.m.**	名護アメリカ情報コーナー **『Game Day in English！』** 米国人と一緒に英語でゲームにチャレンジ。高校生＆大学生対象。先着20名まで。
2014.　3.19(水) **3：30p.m.**	浦添アメリカ情報コーナー アメリカ留学説明会　要予約 アメリカの大学の仕組みや、留学先となる学校の探し方、基本的な留学準備について、説明します。

*変更になる場合があります。詳細は事前に御確認ください。

1頁目に戻る　/　次頁へ

See you Again!

お知らせ

(予告)アースデイ・フォトコンテスト

領事館では4月22日のアースデイに向け、地球への愛を表現した写真を募集します！

入賞者にはCASIOのデジタルカメラなどの豪華賞品を差し上げます。

詳細は3月中旬～下旬に領事館のホームページ・Facebook・Twitterで告知します。

3月： 米国女性史月間

3月8日	国際女性の日
3月21日	国際人種差別撤廃デー
3月22日	世界水の日
3月24日	世界結核の日
3月25日	奴隷及び大西洋間奴隷貿易犠牲者追悼国際デー

1ページ目に戻る

在沖縄米国総領事館

〒901-2104 沖縄県浦添市当山2-1-1
http://japanese.naha.usconsulate.gov/

ニュースレター「からはーい」一覧